

川越比企圏域における継続協議病床の整備の考え方について

医療機能の分化と連携を推進し、急性期から回復期、在宅療養に至るまで、地域全体で切れ目なく必要な医療を提供する「地域完結型医療」を構築するため、地域保健医療・地域医療構想協議会からの意見を踏まえ、以下の考え方を基本に病床整備を進めることとする。

■課題

- ・ 埼玉医科大学総合医療センターなどの高度急性期・急性期病院において急性期を脱した患者の受け皿が不足しており、新たな救急患者の受入れを行うことが困難となっている。
- ・ 回復期リハビリテーション病床については充足感があるものの、高度急性期・急性期病院からの転院に加え、介護施設等からの緊急入院の受入れ、在宅復帰支援を行う地域包括ケア病床が不足している。

○ポストアキュート機能

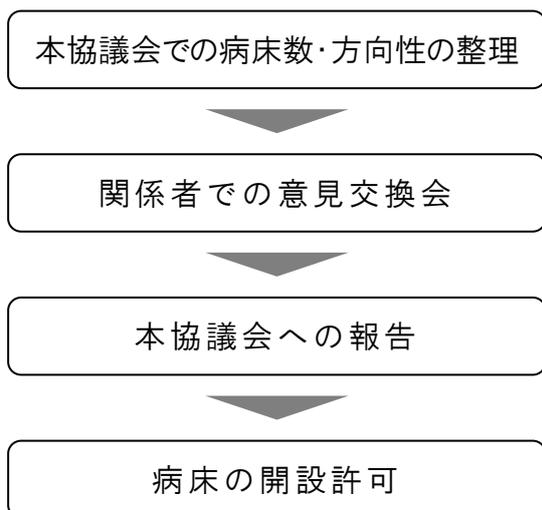
- ・ ポストアキュート機能を担う地域包括ケア病床については、地域完結型医療を推進するため、自院内からの転棟を中心とした自院完結型の病床ではなく、他の急性期病院等と連携した患者受入れを行う病床の整備を進める。

○サブアキュート機能

- ・ 在宅・介護施設等で症状の急性増悪した患者（サブアキュート）機能を担う地域包括ケア病床については、地域の在宅診療支援診療所や高齢者施設等と連携し、夜間・休日等の受入れなど、地域のニーズに対応した患者受入れを行う病床の整備を進める。

なお、今回地域包括ケア病床を整備する病院においては、「圏域内の急性期病院からの転院依頼を自院都合で断らない」「高齢者施設等からの急性増悪時の入院依頼を自院都合で断らない」ことを基本とするが、地域によって必要とされる機能は異なるため、地域包括ケアシステム構築に向け、関係者で協議を行うこととする。

【病床整備までの協議の流れ】



高度急性期病院、回復期病院、老健施設、特養等、市町村関係者で当該地域における地域包括ケア病床の望ましい役割について意見交換

【継続協議に係る病床整備案】

病院名	計画地	整備病床数	主な機能	備考
三井病院	川越市	50床	地域包括ケア	
東松山市立病院	東松山市	36床	地域包括ケア	
南古谷病院	川越市	—	—	辞退
麻見江ホスピタル	鳩山町	—	—	辞退
	計	86床		

【参考】協議済みの整備病床

病院名	計画地	整備病床数	主な機能	備考
丸木記念福祉メディカルセンター	毛呂山町	50床	地域包括ケア	
笠幡病院	川越市	15床	緩和ケア	
愛和病院	川越市	6床	周産期	
	圏域計	157床		